

平成 25 年度大学連携による新たな教育プログラム開発・実施事業(広島県補助事業)

「国際経営を理解する人材の育成と備後企業の取り組み」

第 1 回講義が 10 月 5 日土曜日に開始しました。開講に先立ち、福山大学富士副学長よりご挨拶をして頂きました。その後、広島県知事からのメッセージビデオが放映されました。続いて、福山大学尾田教授からこの講義の成り立ち、特徴および講師紹介が行われ梅沢巨利兵庫県立大学教授による講義が始まりました。

本講義の大きな特徴は、講義を尾道市立大学へ遠隔配信することです。(株) ブイキューブのシステムを利用して、ビデオカメラの映像やパワーポイント資料を送信します。福山大学サテライトキャンパスの宮地茂記念館の受講生はその映像をスクリーンで確認します。また、講義を定点から撮影し静止画のように放映するのではなく、臨場感を高めようとビデオカメラを操作するために尾道市立大学の学生に参加してもらっています。

梅野先生が尾道市立大学のキャンパスの学生に向けて質問するときには会場の受講者からも興味津々という感じが伝わりました。梅野先生は兵庫県立大学でも遠隔配信講義をされており、遠隔地の受講生が気づいてみると誰もいなかったなどとユーモラスに語っておられましたが、この形式の講義には慣れておられる様子でした。ただし、機器操作を自身で行わなくてはならず、それが大変だとも言っておられました。



尾道市立大学の受講生へ質問している様子

留学生は梅野先生のパワフルな講義が面白かったと感想を述べていました。ただし、理論的内容が 2 コマ連続しましたので、受講生には大変だったかも知れません。次回からは、大学の講師の後には企業の講師が説明し質疑応答が行われることで参加型の講義となり、受講生には大きい学習効果が期待できます。積極的な発言をして議論を盛り上げるために、大学生には参加する企業の研究を割り当てました。



動きの多い講師の姿を追って尾道大学へ配信しているところです



教室には4大学の学生と社会人という構成で緊張感がありました